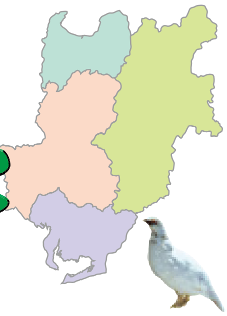
令和３年１月　　　　第 202 号

国民の森林・国有林
林野庁
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報 中部の森林（もり）



1月号

メールマガジン登録で本誌記事や観光情報のデジタル版を毎月お送りします。
登録サイト：https://mailmag.maff.go.jp/m/entry

甲斐駒ヶ岳（南信森林管理署）

主な項目

○ 本局のトピックス（令和３年 年頭のご挨拶～しなやかな組織づくりと地域の皆様への貢献～）…… P 1
○ 各地からのたより（忘れられていた初代大ヒノキ～ほか）…… P 2
○ 森林のお仕事紹介コーナー
・「森林官からの便り」（東濃森林管理署　神坂森林事務所）…… P 7
○ 連載「木曽式伐木運材図会」の解説（第９回）…… P 8
○ シリーズ「ご当地自慢」（木曽森林管理署「木曽の漬物『すんき』」）…… P 9
○ 新型コロナの感染リスクを下げるために全ての場面で引き続き守ってほしいこと …… P 10
○「お役に立ちます国有林」を充実させました／編集長だより …… P 10

しなやかな組織づくりと地域の皆様への貢献

中部森林管理局長　吉村（よしむら）　洋（ひろし）

令和三年　年頭のご挨拶

令和三年の新春を迎えるに当たり、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

目下、我が国は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、人やモノの流れが停滞・変容し、多くの雇用が失われるなど様々な困難に直面しています。林業・木材産業においても、住宅資材や紙の原料となる木材の需要が減退し、価格も低迷しております。

こうした中、当局としては、地域の雇用の下支えのため、今後とも造林、素材生産、治山、林道など各種事業の安定的な発注に努めてまいります。

また、木材の需給動向を注視し、学識経験者、木材の供給者や需要者等からも助言や情報提供いただき、民有林における供給戦略の参考となるよう関係県等に共有するとともに、木材価格の安定のため、国有林材の供給調整も行ってまいります。

さらに、木材需要回復の一助とすべく、治山・林道工事における木材利用の増大にも取り組んでおり、今後とも、民有林と密接に連携し、当局が取り得る策を見出して、果断に実行してまいる所存です。

加えて、令和二年七月豪雨を始めとする自然災害の復旧に全力で取り組むほか、今後とも災害発生時には迅速かつ機動的に民有林も含めた被害調査と早期復旧に努めてまいります。

豊かな森林・山岳に恵まれた当局管内には、例年大勢の方々が登山、キャンプ、スキー、散策等で訪れてくださいますが、昨年は多くの方が諦めざるを得ない状況にあったものと思います。

そこで、当局では、こうした方々に癒やしのひとときを提供すべく、スマートフォンなどで気軽に四季美しい森林・山岳の風景を楽しんでいただける「デジタル森林紀行」をホームページに開設しています。いずれ感染防止と登山等の両立が可能となった際には、この「デジタル森林紀行」で見つけた場所に、大勢の方が訪れてくださることを願っています。

また、昨年十一月十八日と十九日の二日間、二〇二〇ミス日本みどりの女神である井戸川百花さんに一日中部森林管理局長として管内にお越しいただき、長野県知事をはじめ、上松町長、飯山市長、信濃町長のほか、地域で森林セラピーや森林サービス産業に取り組んでおられる団体と意見交換をしていただきました。

井戸川さんは、ご自身も森林セラピーガイドの資格を取得されるなど、森林空間を活用した健康づくりや様々な体験活動に関心が高い方です。井戸川さんの発信力を通じて、多くの方々に当局管内の魅力を伝えていただくことを期待しています。

コロナとの戦いは息が長いものとなりそうです。当局といたしましては、引き続き感染対策を徹底しつつ、どのような状況下にあっても業務が安定的に継続できる「しなやかな組織づくり」を行いつつ、国民共通の財産であり、地域の皆様にとっても大切な資源である国有林の管理経営と林業の成長産業化の下支えを業務の主軸として、地域の皆様に貢献すべく、一歩ずつ前進してまいります。

最後になりますが、読者の皆様のご健康、ご多幸を心から祈念申し上げるとともに、本年も「中部の森林」をご愛読くださいますようお願い申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

忘れられていた初代大ヒノキ
～悠久の森にお目見え～

【東濃森林管理署】

十月二十一日、加子母裏木曽国有林において中津川市民によるボランティア活動が行われました。

コロナ禍に鑑み予定していた「市民国有林見学会」に替えて、国有林の隠れた魅力を観光資源として活用できないか模索する中で、署と市関係者により、「初代大ヒノキ」切り株周辺の整備をしました。

明治36年当時の「初代大ヒノキ」の様子

大ヒノキの由来は、江戸時代、大量伐採に依って災いが続き、天保九年（一八三八）に山神の怒りを鎮めるため、徳川幕府が裏木曽一の大木を神木とし、麓に護山神社が設けられたとされています。昭和九年の室戸台風で折損し、その後枯損が進み、昭和二十九年には学術参考のため伐採されました。推定樹齢九百五十年、切り株の平均直径は二・二メートル、断面は畳三畳ほどもあります。

笹や灌木を取り除く作業

最近は二代目大ヒノキの見学コースが整備されたこともあり、ここへの入込者は皆無となり詳細も不明となったため文献やＧＰＳを用いて現地を確認しました。

現地は、笹や灌木が繁茂し保存のため設置されていた屋根まで覆っていましたが、これらを取り除くと全容が現れました。

全容が現れた初代大ヒノキ切り株

巨大な切り株を初めて目にした参加者一同は、周囲の木々に比べてあまりの大きさに感嘆し、「このまま腐朽し自然消滅するのは勿体ない」、「ガイドコースに入れて公開できないか」といった意見が出され、今後、どのように保全し活用していくか、地域の関係者と賢明な利用へ知恵を出し合っていきます。

※昭和二十九年に伐採された初代大ヒノキから年輪板が作られ、現在、①「熱田白鳥の歴史館（名古屋事務所）」②護山神社（中津川市付知町）③名古屋大学④名古屋市科学館⑤ふれあいのやかた・加子母（中津川市加子母町）に保存展示されています。皆さん一度ご覧ください。

熱田白鳥の歴史館に展示している大ヒノキ

国有林野等所在市町村長有志協議会を開催

【愛知森林管理事務所】

十月十四日、コロナ禍の中、新たな生活様式に配慮しつつ、令和二年度愛知県国有林野等所在市町村長有志協議会（以下「協議会」という。）を開催しました。

例年7月頃に協議会を開催していましたが、新型コロナが全国的に広がる中、政府・地域等の状況を踏まえ、開催を見合わせていたところですが、各種対策を講じ、ようやく令和二年度の協議会を開催することができました。

協議会では、代表世話人である設楽町長の挨拶に続き、中部森林管理局、当所から主要事業等の概要を説明しました。

トピックでは、「造林事業の省力化に向けた新たな挑戦」、「ICTを活用したニホンジカ捕獲の取り組みについて」など事例を交えて紹介しました。

意見交換では、有害鳥獣対策について、「獣害対策のICT技術は、町が機材購入の助成をすれば地元猟友会でも取扱い可能か」、「カモシカの錯誤捕獲で死亡災害が発生しており、市町村へ講師派遣は可能か」、「バイオマス利用にあたって、D材利用の条件を具体的に教えてほしい」などの様々な意見や要望が寄せられ、当所からも、これらに関する取組を説明するなど、貴重な意見交換をすることができました。

今後も市町村等との連携を深め、地域の要望に応える森林づくりに努めてまいります。

協議会での意見交換の様子

JICA及び農林漁業信用基金による視察を受け入れ

【東信森林管理署、企画調整課、資源活用課】

十月二十九日、東信森林管理署管内の国有林において、（独）国際協力機構（JICA）地球環境部の職員十一名及び（独）農林漁業信用基金の職員四名が国有林野事業の現場を視察しました。

JICA地球環境部の職員は、森林・自然環境保全分野における国際協力プロジェクトの形成や専門家の派遣等に携わっておられ、農林漁業信用基金の職員は、林業・木材産業の事業者が融資を受ける際の債務保証の支援に携わっておられます。両機関の業務を進めるにあたり、国内の林業現場における最新の状況を理解したいとの要望があり、今回の視察受け入れに至りました。

当日は爽やかな秋晴れのもと、午前は伐採・造林一貫作業の実施箇所においてドローンを活用した跡地検査の実証やコンテナ苗の植付け作業を、午後は浅間山の火山防災対策として国土交通省と連携して実施している治山工事や、高性能林業機械による保育間伐作業を視察していただきました。

参加した両機関の職員からは、「国内林業の現場でどのような作業が行われ、どのような技術が使われているのかを理解でき、今後の国際協力を進める上で重要となる物事を考える軸ができた」、「今回視察した林業の成長産業化に向けた各種取組を参考にして、林業や製材加工を営む方々の活動を支えていきたい」などの感想が寄せられました。

今後も、森林・林業に関わる関係機関との連携を深めながら、林業の成長産業化へ向けた取組を進めてまいります。

ドローンを用いた
跡地検査の実証作業を視察

民有林直轄治山工事において通信環境導入試験を実施

～ICT施工の実現を目指して～

【富山森林管理署】

常願寺川地区民有林直轄治山事業地（富山市）において、通信環境導入試験を行いました。

この試験は、当署の治山・林道工事は山間部の携帯電話不感地域で行われている箇所が多く、緊急時の連絡や気象予報の急変情報の把握に遅れが生じるおそれがあり、通信環境の整備について工事受注者から多くの要望があったこと、また、通信が可能となることで現地映像等の情報をリアルタイムで共有することにより、効率的な施工管理が可能となり、行政コストの削減や働き方改革の実現、さらに感染予防対策にも寄与することから、今年度試行的に実施したものです。

試験の実施に当たっては、NTTアドバンステクノロジの協力も得ながら、フレキシブルに設置・撤去が可能な小電力データ通信装置等を使用し、現地映像の転送による工作物の出来形確認や音声通信による会話が十分に可能であることが確認できました。

十月十三日及び二十日には見学会を開催し、多数の工事関係者、富山県職員の方々に参加していただき、通信状況の確認や通信機器の操作体験をしてもらうことができました。意見交換では、ICT施工に繋がる高速・大容量通信への期待の大きさを感じました。

このような通信環境整備への期待に応えられるよう、引き続き取組を進めてまいります。

通信機器を操作している様子

ブランド材「段戸SAN」現地検討会の開催

【愛知森林管理事務所】

十一月十八日、愛知県設楽町段戸国有林の百年越えのブランド材「段戸SAN」の森林整備事業地において、自治体や林業事業体に参加いただき現地検討会を開催しました。

今回はコロナ禍の中、新たな生活様式に配慮し、参加者を二十名程度とこれまでの半分に抑え、事業体のスキルアップを軸に参加者を募りました。

なお、この検討会は、昨年までの生産性向上プロジェクトの現地検討会に替わるものとして、地域から国有林のフィールド活用や、技術支援が求められていることから開催したものです。

「段戸SAN」の生産量は限られていますが、その供給にあたっては極力需要者のニーズに応えるよう努めています。

これまでの供給先は、神社・仏閣への利用を目的とした関係者が多くなっています。

丸太の採材方法を検討している様子

検討会では、集材・採材・運搬の作業の様子を見学し、その後三班に分かれて丸太の採材技術の検討を行いました。

参加者からは、「伐採・採材方法、木口の仕上げ方、根杢（木材の根の部分に表れる木目のこと）のはずし方、木取り、枝打ち跡の見せ方」などについて、熱心な意見交換が行われました。

コロナ禍で、木材価格が低迷する中、今後も、需要者ニーズに応えた丸太の供給に努めてまいります。

令和二年度ニホンジカ食害防除対策検討会を開催

【森林技術・支援センター、岐阜森林管理署】

十一月十九日、岐阜署管内の七宗国有林及び隣接する民間施設において、岐阜県の各農林事務所、七宗町農林課、中部森林管理局・署等関係者四十二名が出席し、ニホンジカの食害対策の取組などの情報共有や意見交換等を目的とした検討会を開催しました。

被害防除については、低コストで効果的な対策の実施に向け、国・県・市町村が相互に情報共有を図り、意見交換を行うことによって、地域ぐるみでニホンジカ捕獲による食害対策を目指すこととしています。

午前には岐阜県森林研究所の専門研究員に「ニホンジカ対策の現状と課題について」の講演をいただくとともに、中部局管内の獣害対策の取組事例の紹介を行いました。

午後からは、七宗国有林内の「獣害対策展示エリア」へ移動し、エリア内に設置してある各種の罠等について、当センター職員と開発メーカーの各担当者が説明を行い、出席者からの質問に答えました。

当センターでは、外部の有識者や関連企業と連携して、引き続きニホンジカ食害防除対策に取り組んでまいります。

岐阜県森林研究所専門研究員の講演

「くくり罠」設置の実演の様子

治山技術の向上を目指して
～三署合同の勉強会を開催～

【岐阜森林管理署】

十一月五日、飛騨・岐阜・東濃署の治山業務に携わる若手職員を中心とした十名の職員を対象に、現地検討及び意見交換による治山技術の向上を目的とした三署合同の勉強会を開催しました。

現地検討は、御嶽山の岐阜県側登山口となっている下呂市小坂町濁河温泉から約一キロメートル地点に完成したコンクリートスリットダム工の施工地で行いました。施工地は平成三十年七月豪雨で発生した土石流によって「草木谷」に架けられていた登山道のつり橋が流失した付近にあたり、濁河温泉の施設も被災したことから早急に復旧するため災害関連緊急治山事業により実施した箇所です。

現地では、当署の工事監督職員の中屋主任治山技術官から工事個所の説明を受け、標高約千九百メートルの厳しい気象条件下で二年にわたって完成させた治山ダムの施工方法について学びました。

下山後は、当署会議室にて、意見交換を行いました。

若手職員から、「工事内容変更時に工種選定の判断に苦慮した」、「工法選定にあたり意見が合わないことがある」、「ドローンを活用して山腹工の法切土量を算出する方法を模索している」といった意見等が出されるなど、有意義な勉強会となりました。

今後も治山技術向上のため、合同勉強会を企画していきたいと考えています。

コンクリートスリットダム工の施工地で現地検討の様子

林業成長産業化構想技術者育成研修（中部ブロック研修）

【森林技術・支援センター】

十一月十日から十三日、林業成長産業化構想技術者育成研修が岐阜県下呂市及び七宗町において開催され、近隣五県から六名の受講生が参加し、当センターが研修運営をサポートしました。

この研修はICT等の最新技術を活用し、効率・効果的な路網計画を中心とした循環的な木材生産の戦略を描き、林業の成長産業化に向けた構想を作成する人材育成を目的として実施されており、第一日目は、外部講師による地域特性に応じた森林づくり構想の講義等を受講しました。第二日目は、七宗国有林及び隣接する民有林で、路網計画の現地検討や森づくりの現地実習を行い、第三日目は、各班で路網・森林整備・木材生産の各計画と林業成長産業化のための戦略を練り、第四日目は、その検討結果を班ごとに発表し質疑応答を行いました。

受講生からは、「最新技術を活用して、市場のニーズに応じたサプライチェーン（供給連鎖）を含めた戦略作りのノウハウを学習できた」といった意見が出されるなど、技術力養成への一助となる研修となりました。当センターでは来年度以降も研修の現地スタッフとして、サポートしたいと考えています。

路網計画の作成演習状況

七宗大径材展示林の現地実習状況

名古屋林業土木協会富山支部ボランティア活動

【富山森林管理署】

十月六日、富山県上市町の早月国有林内において名古屋林業土木協会富山支部の主催による歩道整備ボランティア活動が協会員九社から十名の参加により実施されました。

当地域は剱岳をはじめとする北アルプスへの登山口やキャンプ場があり、行楽シーズンには多くの観光客が訪れることから、森林浴を楽しむ人の安全確保を目的として実施されました。およそ五百メートルの歩道を鎌や草刈り機などを用いて整備されました。作業前は肌寒さを感じる天候でしたが二時間ほどの作業が終わる頃には全員が汗ばむほどの充実した作業となりました。

早月国有林では治山事業に伴う工事車両の通行などもあり、アウトドアを楽しむ皆さんにはご迷惑をおかけすることもありますが、今後とも安全第一に工事を進めていただき、地域の安全・安心を早期に確保するとともに、森林とのふれあいの場の整備を通じた社会貢献活動も継続いただけることを期待しています。

歩道整備等の作業の様子

歩道整備ボランティア作業後の記念撮影

国有林と言えば現場、現場と言えば森林官！しかし、一般の方には余り馴染みがないと思います。
そこで各地にある森林事務所や地域の特色、森林官の仕事などを紹介していきます。

シリーズ「森林官からの便り」

【東濃森林管理署 神坂森林事務所】

首席森林官 北沢 伸之

神坂森林事務所は、岐阜県東部の中津川市、中山道の四十三番目の宿場である「馬籠宿」がある神坂地区に所在し、長野県境に接した賤母国有林、川上国有林及び湯舟沢国有林併せて約四、〇四〇ヘクタール、官行造林地、約一六ヘクタールを、森林官、森林技術員、行政専門員の三名で管理しています。

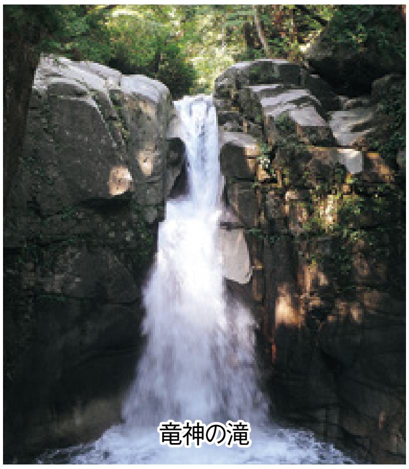
森林事務所前にて（中央が筆者）

【賤母国有林】

九割が天然林で温・暖帯の接点に当たる箇所であり、五百種類以上もの多様な植物が生育していることから、賤母生物群集保護林に指定されています。

【川上国有林】

日本三百名山のひとつ奥三界岳や、一万五千本と言われる紅葉の名所「夕森公園」には、その昔、竜神の滝に住む白竜が突然姿を現し、天まで駆けあがったと同時に激しい雷雨が村を襲ったという「竜神伝説」の竜神神社もあり、登山やキャンプに多くの方が訪れます。


竜神の滝

【湯舟沢国有林】

天然林が六割、人工林が四割で急峻な地形となっています。万葉集にも歌われている東山道の神坂峠や、富士見台、恵那山など、多くの登山者等で賑わいます。

富士見台から見る恵那山

また、国有林の代表的な巨樹・巨木として「森の巨人たち百選」に選定された「神坂大檜」は、根元がササに覆われ神々しい雰囲気に包まれており、長年の風雪に耐えてきた風格があります。

神坂大檜

近年では、冷川の支流に取水口を設置した小水力発電所が建設され運用を開始しました。今後も国有林内の資源について、積極的に有効利用していきたいと考えています。

管内全域では、ここ数年ニホンジカが増加しており、食害による森林の破壊が危惧されていることから、地元猟友会の協力による有害鳥獣駆除や、センサーカメラによる生息調査を行うなど、獣害対策の取り組みも行っています。

昨年七月の豪雨により林地の崩壊や林道の決壊等の災害が発生しました。改めて災害に強い森林の重要性を認識したことから、災害に強い健全な森林づくりに取り組んでいく所存です。

■未来の担い手へのメッセージ

森林づくりは一つの技術だけでなく、広い視野で技術を積み重ね、経験として活かしていく奥深い仕事だと思っています。是非、森林・林業に興味を持っていただき、一緒に「森林づくり」をしていきましょう。

連載

「木曽式伐木運材図会」の解説（第九回）

中部森林管理局技術普及課　井上日呂登

今回から「木曽式伐木運材図会」の下巻に入ります。下巻では川を利用した「運材」の場面が描写されています。自動車も鉄道も無かった時代、川は物流に重要な役割を果たしていました。

「管狩之圖」について

川の支流または本流に到達した木材は一本一本、バラバラに川を流されます。これを管狩、管流し、バラ狩などと呼びました。特に川の本流に流すことを大川狩とも呼びました。

「管狩之圖」では、川の途中の岩場に引っ掛かった木材を、鳶竿（長い鳶口）で外す風景が描かれています。

「管狩之圖」より

木曽での管狩の様子

「鴨桴之圖」について

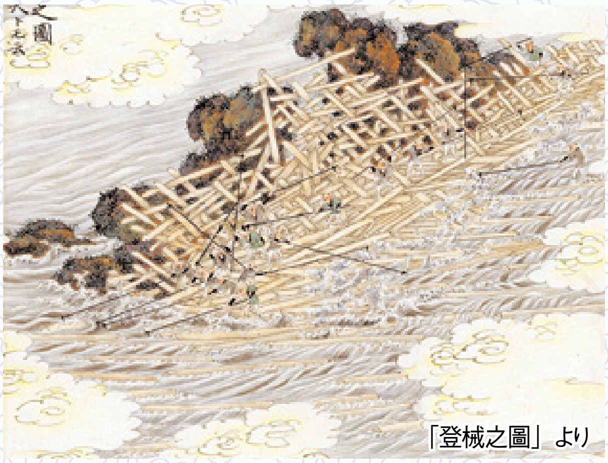
「いかだ」の絵ですが、これは本格的に木材を川で運ぶためのものではありません。この「鴨桴」は五、六本の木材で作られており、川の途中で引っ掛かった木を動かしたり、日用（運材を行う労働者）が川を渡る際に用いられました。

「鴨桴之圖」より

小さないかだで移動する日用

「登械之圖」について

川に木材を流す途中では、大きな岩などの引っ掛かりやすいポイントが出てきます。これを放置すると、後続の木材が更に引っ掛かったり、流れをせき止めてしまったりします。このため、木材を組んで械と呼ばれる構造を作り、引っ掛かりを少なくすると共に、人員を配置して流れの停滞を防止しました。


「登械之圖」より

急な大雨や台風があると、せっかく運んできた木材が流されてしまう恐れがあるため、川での運材作業は降水量の少ない冬に行われたとされています。このため、作業は危険なだけではなく、冬の冷たい水に浸からなければならない、辛いものであったことでしょう。

管狩の様子（年代・場所不明）

次回は、「留綱張之圖」「留綱之圖」「角乗之圖」について解説させて頂きます。

中部森林管理局では、この「図会」を保管し、それぞれの場面を切り取ったものを画像としてホームページで紹介しています。

サイトは、ＱＲコードを読み込んでください。

なお、木曽式伐木運材図会は、一般公開は行っていません。

ご当地自慢

「木曽の漬物『すんき』」

94

木曽(きそ)森林管理署

長野県木曽地方には、江戸時代から伝わる漬物「すんき」があります。木曽郡内を主として御嶽(おんたけ)山麓(さんろく)の村々で受け継がれ、現在は長野県の無形民俗文化財として選定されており、木曽の伝統食品の一つとなっています。

冬の御嶽山麓

「すんき」とは、塩分を一切使用せず植物性の乳酸菌だけをタネとして発酵させた漬物で、乳酸菌の酸味が癖になる味わいです。

木曽地方は古くから、「米を貸しても塩を貸すな」と言われるほど塩の入手が困難な地域だったからこそ、「すんき」が生まれたのではないかと考えられています。

当署職員お手製の「すんき」

すんきは、各家庭で冬の風物詩として作られており、原料は木曽の赤カブで、それぞれの地域ごとに品種が違い、作り方も地域や家庭ごとに違いがあります。

また、すんきのタネは、前年のすんきを干したものや冷凍したもので、山の木の実（ズミや山葡萄(やまぶどう)など）を使う家庭もあります。

基本的な作り方は、赤カブの葉と茎を湯通しし、すんきのタネと交互に一緒に桶に漬けます。一週間くらい経つと、美味しいすんきが出来上がります。

すんき漬の作業体験の様子

毎年冬には、木曽地域振興局主催の「すんきコンクール」が開催されており、すんきの品質向上とその味を後世へ伝承しています。

すんきは塩分を使用していないので、血圧の上昇や、血液の酸性化を防ぎ、赤カブの葉は繊維質が豊富で便秘解消や美肌効果、免疫力の増強が期待されます。免疫力を高めることで、花粉症などのアレルギーを制御する働きもあることから、体に良い自然派食品なのです。

すんきの食べ方として、鰹節と醤油をかけてそのまま食すのも良いですが、そばやみそ汁、油炒めなど色々アレンジした美味しい食べ方ができるのも魅力の一つです。

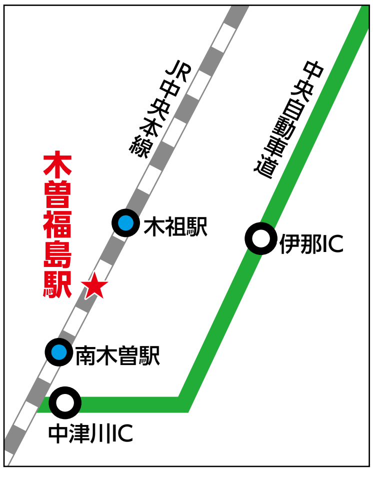
ぜひ、木曽を訪れた際には、ご当地自慢の味をご賞味ください。

当署職員がこしらえた「すんきそば」

◆木曽町へのアクセス

【公共交通】
JR中央線木曽福島駅

【自動車】
中央自動車道中津川ICから国道19号約六十分
中央自動車道伊那ICから国道19号約四十分



新型コロナの感染リスクを下げるために全ての場面で引き続き守ってほしいこと

○マスク着用や三密（密閉・密集・密接）の回避を徹底しましょう。
○換気を良くしましょう（室内の場合）。
○集まりは、少人数・短時間を心掛けましょう。
○大声をださず会話はできるだけ静かにしましょう。
○共用施設の清掃・消毒、手洗い・アルコール消毒を徹底しましょう。

改めて、三密の回避、手洗い、マスク着用、換気、共用施設の消毒などの徹底をよろしくお願いします。詳しくは、次のQRコードを読み込んでください。

◇感染リスクが高まる「五つの場面」（内閣官房）

◇新型コロナウイルスについて（農林水産省）

「お役に立ちます国有林」を充実させました

中部森林管理局では、森林の公益的機能の発揮や林業の成長産業化に向けて様々な取組を行っています。その中から民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様に参考にしていただけそうな事例を「お役に立ちます国有林」と銘打って、ご紹介をしています。

この度、航空レーザ計測データ活用やニホンジカ対策の事例追加などの内容を充実させて、当局のホームページに掲載しましたので、是非ご覧ください。

【技術普及課】

◇事例紹介
「ついで捕獲、ついで見回り・通報～事業体、猟友会等のご協力によるニホンジカ捕獲～」

【事例集11ページ】

※「お役に立ちます国有林」は、次のURL及びQRコードを読み込んでください。
http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/policy/business/oyakunitaimasukokuyurin.html

編集長だより

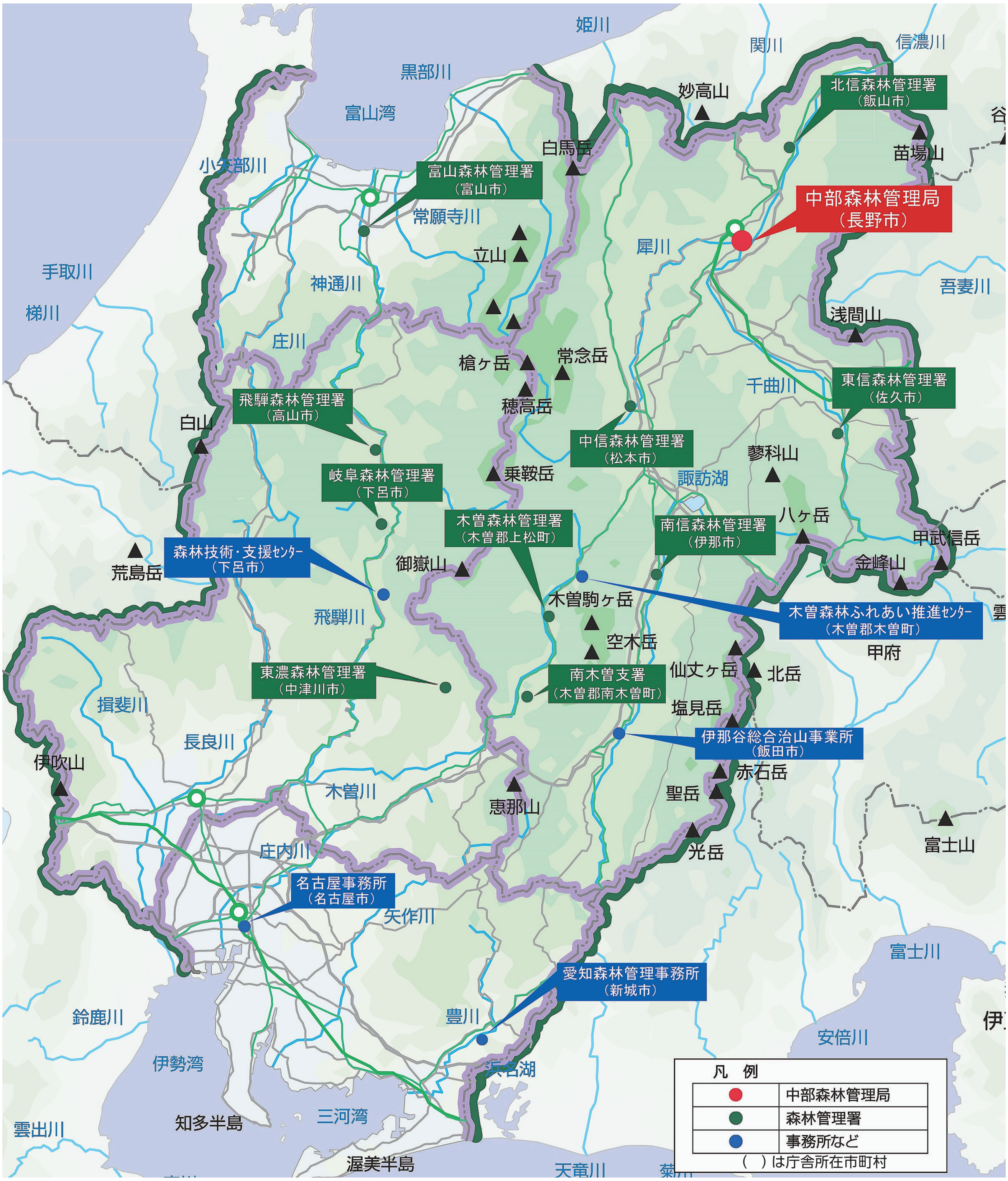
（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、**migoro@maff.go.jp**まで電子メールでお送りください。）

新年明けましておめでとうございます。
コロナ禍の中、年末年始は、静かなお正月をお迎えになった方も多いのではないでしょうか。新年といったら、縁起を担いで初笑い！今年は丑年!もう～っと駄洒落で始めさせていただきます。
「牛の初笑い。ウッシッシ！」、「牛が数を数える。ビー、フー、みい！」、「今年は縁起を担いで、牛をCOW（飼う）」、「今年は牛に投資（とウシ）しましょう！」、「戦う牛は、闘志満々！」、「干支の丑は、どこにいる、後（ウシ）ろ！」、「寒がりの牛の必需品！毛布」、締めは…もう～ネタ切れ。お粗末様でした。
中部の森林では、本年も魅力ある紙面作りに心掛けて、充実を図っていきます。
皆様の一年が豊かで健やかでありますように。令和3年もよろしくお願いいたします。
※心の健康、目の保養には、いつでもお気軽に自宅で森林や自然の風景を楽しむことができる「デジ森（もり）」で、美しい風景をご覧になってください。

デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。

☆デジ森 !今月の広報主任官のお勧めサイト!
どんなお勧めのサイトかは、以下のQRコードを読み込んでからのお楽しみ!
また、3つのQRコードの中には、過去へタイムスリップするデジ森の裏サイトがありますよ!

何かなぁ　何だろう
!(^^)!　(*^-^*)



お問い合わせ先　中部森林管理局　〒380-8575　長野県長野市大字栗田715-5　TEL 050-3160-6507（代表）　TEL 026-236-2721（夜間・休日）　FAX 026-236-2657

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市臼田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149